

多面的機能を発揮する森林を起点とした流域政策について

近畿部会提出

我が国は、国土の約7割を森林が占め、その森林が源となって無数ともいえる河川が形成され、先人たちは、この森林と水を持続的に活用する中で、豊かな社会を構築してきた。

しかし、社会構造の変化によって森林資源は活用されず放置され、そこに局部的豪雨など異常気象により森林土壌が過剰に流出し、その土砂が河川に流れ込み河川環境が悪化することで生態系や人々の暮らしに影響が及び、さらに下流域での水害の拡大も懸念されるなど、我が国が森林大国であるがゆえに、森林を起点とした連鎖的かつ横断的な問題が発生しつつある。

この問題を解決するためには、森林だけ、河川だけ、あるいは上流域だけ、下流域だけなど、分野や地域を切り分けた解決策を探るのではなく、森林の持つ多面的機能と源流域から河口までのつながりを視野に入れた流域政策を展開する必要がある。

加えて、流域の中にあるダムなどの人工構造物は、様々な恩恵をもたらす一方で、上流から下流まで土砂移動の連続性を阻害し、ダム下流の河床のアーマーコート化や河口部の浜崖等様々な問題を生じさせている。

これら諸問題を解決するために、下記の項目について要望する。

記

1 森林の最大限の機能発揮について

森林は、木材生産や水源涵養、生物多様性保全など様々な機能を有しているが、従来は特定の機能発揮に特化した森林整備がなされるか、多面的機能を有すると掲げることにとどまる傾向にあり、真に多面的機能を発揮する森林整備が行われてきたとは言い難い。

- (1) 森林の中で、特に国民の暮らしに関わりの深い流域において、多面的機能を発揮すべき森林を科学的検証に基づいて特定するとともに、多面的機能を最大限に発揮するための森林整備手法の構築及び整備に資する財政支援を強化されたい。
- (2) 多面的機能の発揮に資する森林整備を現場に応じて適切に立案し、指導できる人材育成の仕組みを構築するとともに、こうした森林整備や人材育成が、森林組合をはじめとした森林・林業の担い手にとって新たな事業となる仕組みを構築されたい。

2 源流域から河口までのつながりを意識した流域政策の展開について

我が国では、源流域から河口までの流域全体をひとつの自治体の中を含む例は稀であり、基礎自治体として流域政策を展開しにくい状況がある。また源流域から河口までのつながりの価値も明確に共有されていない。

- (1) 源流域に当たる森林の状態と、それが及ぼす下流域への影響の因果関係を研究されたい。
- (2) 国の主導のもと、流域全体を視野に入れた政策形成と具体的施策の立案および実施について検討するとともに、その施策の有効性を実証するために、モデルケースとして源流域から河口までの流域全体を含む自治体において事業化を図られたい。

3 ダムによる土砂移動の不連続性の解消について

上流の森林から流入してくる土砂の堆積により、利水を主目的としているダムにおいては、貯水量の減少が大きな問題となるとともに、ダム下流の河川環境が悪化している。

- (1) 堆砂をダム直下の河川に還元することや農地に還元することで、貯水量の維持と河川環境の改善等に資するための研究を進め、ダムによる土砂移動の不連続性の解消を図られたい。
- (2) 特に、農業用ダムにおいて実践例が少ないため、農業用ダムにおける実施を進められたい。